

『今回は、日向市に来て、公演をしていただき、ありがとうございました。小中学校の歴史の授業で「全国水平社」という言葉を聞いたことや、「全国水平社」が宣言をしているあの写真を見たことはありましたが、その組織が設立した理由などの詳しい経緯は知らなかったのもので、今回の公演で知ることができて本当に良かったと思いました。背景の絵や様々な音、動画が加わった劇は初めてで、内容がとても頭に入ってきました。歴史の授業では、ここまで細かくしたことはないのもので、とても勉強になりました。昔では、出身でも差別をされていたということを初めて知り、とても衝撃を受けました。また、「全国水平社」の旗に、険しい道のりを意味する「茨の冠」があることや、西光万吉さんが、最初は画家を目指していたことにも驚きました。そして、西光万吉さんの母親が、亡くなる前に自分の子供に謝るシーンや、「この世を呪え」と自分の子供に言った母親の話で思わず涙が出てきました。どうして出身が違うだけで、差別されなければいけなかったのかが私には分かりません。今の時代でも、出身によって差別されている人がいるかもしれません。もし、周りにそんな人がいたら、自分から人に話しかけることが苦手な私ですが、思い切って、話しかけてみようと思います。これから、人生の中で、どうすればいいのかわからなくなることがたくさんでてくると思います。その時は、家族や、学校の先生方、親しい友人に相談してみようと思います。この公演で、新しいことに挑戦する勇気をもらいました。この公演を忘れることはないと思います。本当にありがとうございました。』

『今回、初めて人権劇に参加させていただいて、改めて人権の大切さ・尊さについて考えることが出来ました。全国水平社について学び、私は、人が人として尊重される社会をつくるのがどれほど難しく、そして大切なことだと気づかせられました。被差別部落の人々が、不当な差別に正面からぶつかり合い、立ち上がったことは、当時としては、大きな勇気と大きな夢を実現するという希望がなければこのような行動はできなかったと思います。また、水平社の活動を知ること、私自身の中にも無意識の偏見とかがあるのではないかと考えさせられました。また、差別は広がる。悪い意味で人と人をつないでいる。差別をされている人がかわいそうなのではなく、差別をする人、自分より下の人がいないと生きていけない人がほんとうの意味でのかわいそうであるということによく気付かされました。』

『内容は重い人権についての大切なお話でしたが、劇をとおして見ることで普段話を聞くときより理解を深めることができました。現在も差別が全くないわけではありませんが、差別をなくすために「一人一人の心を変える」ことが大切だと感じました。自分が生まれた場所、環境にとらわれずに、自分がやりたいことなど可能性を広げていきたいと思いました。光座さんたちの感情のこもった演技にとっても感動しました。今後も人権に関する講演会などに積極的に参加し、新しいことをたくさん知って、友達や家族などに話していきたいです。ありがとうございました。』

『今回は、初めて人権劇を見ました。ぼくはあまり劇団など興味はないのですが、今日はすごく興味がわく内容だったので、今日、ここまで足を運んで見にきました。生まれた場所で人が人を差別するのは良くないということがもっと強く分かりました。そしてかわいそうなのは差別をうける人ではなく差別をしないと生きていけない人達だということが強く分かりました。今、ぼくたち自身も気づかずに偏見などで人を差別をしているかもしれません。それをなくすため、まずは自分自身が意識してなくて、まわりにもそういう人がいたら注意したいです。そして今、自分が普通に生きているのはあたりまえではないということを感じていきたいです。』

『今日は、初めて自分の意見で劇を見に来ました。そのテーマが「人権」という自分が知っていそうであまり知らないテーマだったのでとても気になっていました。見に行く前の気持ちは、テーマに興味をもっていただけだったけど、劇を見ていくうちに「人権」についてや、人としてのあり方を考えさせられ、これからの人生すらも考えてしまうほど感動してしまいました。今回の劇を見て、とくに好きなのは、万吉さんの生き方です。生まれた場所が理由とだけで、学校にも行けず、才能を思うように発揮できず、普通の恋愛もできないのに、母親の言葉や周りの人のために、めげずに必死になって全国水平社を作ったのがすごいと思いました。自分も万吉さんのように何事にもめげずに、あきらめずに自分の夢や目的のために、一生懸命生きていきます。今日は、このような劇を見れてとても良かったです。』

『人権をテーマにした劇団があると知らなくて今日、初めて「光座」の公演を見たんですけど、演技がとても上手で見入ってしまうくらい素敵でとても感動しました。分かりやすい内容だったので理解しやすくてとても良かったです。生まれた場所で差別され、いじめられ、身体的にも精神的にも傷つけられてとてもつらかったということが伝わりました。学校でも先生からいじめられ、誰も味方のいない状態でとても苦しかったと思います。私の周りには、生まれた場所という理由だけで差別する人がいなくてとても良かったと思いました。まだ、世界には差別する人がいると思うので、そのような人が考えを改めてくれたら良いなと思いました。ありがとうございました。』

『こういう講話に、自主的に参加したのは初めてでした。いろんな年齢層の人々が心をこめて一つの物語をつくっているのがとてもすごかったです。自分は子どものころに差別をうけないのが普通と思っていたら、出身地や特定の人から生まれただけで差別され、長い間苦しんでいる人がいるのを知りました。その中で、この物語に出た「まんきち」はいろんな事をあきらめてしまったけれど、その先に大きな成功をかちとっているのがとてもすごい人だと思いました。』

『人権問題をテーマにした今回の光座の劇を見て、劇団の方々の力強さや同和問題に関する 1 つ 1 つの言葉がささりました。いじめはあってはいけない、差別は起こってはいけない。1 人の人間として 1 人 1 人に差別という問題を問いかけていると思いました。同和問題の講話を聞くことは 2 回目で、前回は講話を聞いて同和問題について理解を深めることができました。今回は劇で講話とは違った視点で目で見ること、耳で聞く両方を劇を通して学ぶことができました。私も学校で人権問題について学ぶことがあり、劇で見ることは初めてだったので、実際に見て 1 人 1 人の言葉の重さや身振り手振りなど人権について強く訴えることがとても伝わってきました。問題はすべての人が理解し、考えていかなければいけない問題であり、それは現在にも伝わっていることなのだと理解を深める上でも学ぶことができました。ありがとうございました。』

『私は前に学校で講和をしていただいたことがありましたが、その時は話を聞くだけであまり実感がわきませんでした。今回の劇では、話だけではなく体や感情で伝えてくださったので実感しやすかったです。そして、差別がどういうものかよくわかったのでよかったです。そして、この体験をこれから生かそうと思いました。』

『小中高の教科書で出てきた全国水平社の誕生した理由が知れる、とても良い講演会だった。全国水平社を設立する前に、つばめ会というものを作っていたのは知らなかったから勉強になってよかった。生まれた時から出身地で差別され続けて心が一度折れてしまった西光さんだったけど、同じ出身地の人々や賀川豊彦さんと出会い、水平社設立に至ったのは凄いと思ったし、同じような境遇の人達にとっても希望となったと思う。「創立大会の際に全国から約 3000 人駆けつけた。」という話は聞いたことがなくて驚きました。よく知らなかった水平社のことが詳しく知れたのでとても良い体験ができた。講演に来ていなかった人達にもこの話は知ってほしいと強く思いました。』

『今回の人権劇をみて、生まれた場所によっても差別されていることに衝撃を受けました。特に、主人公が出身地を隠して、お母さんとの約束を守るために必死に頑張っているところに感動しました。あんまり自分自身は差別というものを感じたことがないけど、今でもあると考えるとひどいなと思います。でも、法律などで定めても差別は大幅になくなることがないと思うので、それぞれの意識が大事だなと思います。自分も差別をいけないと思うだけでなく、見かけたら行動できるようになりたいです。』

『先日の人権学習の劇を見て、あらためて相手の立場に立って考えることの大切さを感じました。劇の中で、何気ない言葉や行動が相手を深く傷つけてしまう場面があり、普段の自分の言動を見直すきっかけになりました。自分では冗談のつもりでも、相手にとっては苦しかったりつらかったりすることがあるということを忘れずにいたいと思いました。また、周りの人が気づいて声をかけたり、助けたりするシーンが心に残りました。一人で悩んでいる人がいたら、気づいて寄り添える人でありたいと思いました。人はみんな違うからこそ、互いに認め合い、支え合う社会にしていける必要があります。今回の劇を通して、人権はだれにとっても大切であり、身近なところから守っていけるものだと学びました。これからの学校生活でも、相手の気持ちを考え、思いやりを忘れずに行動していきたいです。』

『今回の劇を観て、西光万吉さんは、幼少期から生まれた場所、地域によって差別され、中学入学後は先生にいじめられ、同級生には冷たい目を向けられ続けていた事や、差別はされなかったものの貧困で友達の一恵さんと離れ離れになってしまった葵さん、成長しても出身の地位によって出世、結婚を諦めなければいけない、何をしても成功しても認めてもらえないという理不尽を乗り越え、水平社を創り、自分たちと同じように差別を受けてきた人々を解放する西光万吉さんの姿が凄くかっこよく思いました。また、私もこの様な立派な人になりたいです。』

『今回の公演では「部落差別」について「光座」のみなさんが劇をしてくださいました。劇の中で、「北岡に生まれただけなのに」というセリフが何度も出てきました。また、葵さんの場面では貧富の差から仕方なく「大阪へ自分を売る」という場面もあり、心が痛くなりました。主人公の万吉さんが受けた差別は、一人の人生を深く傷つけてしまうものだと知りました。そして、人を生まれや噂で判断することがどれほど人を追い詰めてしまうかを改めて理解しました。母の死後、約束を果たすため京都、東京へと行き有名な画家になるも、結局差別に悩まされていました。そんな場面を見て、現代にもあるようにやはり差別は簡単に消えるものではないことを感じました。万吉さんが画家をやめ 26 歳の時に手にした本に「差別は人間が作った・差別される人が問題ではなく差別する人が問題」と書いてあり、万吉さんが言ったように私もその通りだと思いました。それから後、最初は「つばめ会」という小さな団体から始まった平等を掲げる運動も次第に大きくなり、「水平社運動」につながりました。そして差別をなくすためには、傍観者にならず誰かが声を上げることが必要で、その一歩が社会を少しづつ変えていくのだと感じました。私は、今回の学びを通して、偏見や噂に流されて判断をするのではなく、自分の言葉や態度に気をつけ、誰に対しても何に対してもお互いを尊重して公平に接することを大切にしていきたいと思いました。』



『劇を見て、差別や偏見が昔の話ではなく、今の日常のすぐ隣にある問題なのだと感じました。特に、劇中に出てきた生徒の無意識の噂や何気ない言葉でまんきちさんが傷ついたシーンが心に残っています。これからは、差別はいけないと頭で理解するだけでなく、正しい知識を身につけ、周りの空気に流されずに、おかしいことにはおかしいと言える人になりたいと思いました。差別をなくすことは難しそうだけど、まずは人を見た目や噂だけで決めつけないことを意識していきたいと思いました。』

『初めて人権に関する劇を見たけど、とても感動しました。万吉みたいな出身だけで差別されることが私には考えられませんでした。教師まで万吉をいじめていたことが許せませんでした。万吉のお母さんが「産んでごめんね」という言葉が印象に残りました。何もしていないのに謝っていて、このような世の中があったんだと腹が立ちました。「光座」を見て、より人権を大切にしたいと思いました。これから先、このような世の中を作らないためにできることをしたいと思いました。』

『水平社という言葉は中学の歴史の時間に水平社という団体があったということを聞いただけ、よく知りもしないものでした。西光万吉という人の名は、今日始めて聞きました。水平社という大きな団体を作るためには大きな原動力が必要で、その原動力となる彼の人生をこれまで微塵も気にしていなかった自分に驚きました。人間としての平等を求めて全国水平社が結成されたという教科書に書いてある浅い記述を見て、どうして人々は立ちあがったのかに私は目を向けずにいたので、彼らやその周りの人の歩みを知れて良かったと思います。途中で出てきた葵さんですが、最初に友人を連れて行かれて以降出番がないなと思っていましたが、農民組合のところで出てきて、彼女のあの経験が彼女の人生に影響を与えたんだという説得力がありました。差別をなくそうと動いてきた過去の人々の考えが、現代にまで続いているということがとても素晴らしいことだと思いました。』

『今日、私は初めて人権の劇団をみました。日本で初めての人権宣言とされる「水平社宣言」を起草した西光万吉の人生を約 40 名の大人と子供が一生懸命に演じているのに凄く感動しました。私は「水平社宣言」という言葉を聞いたことはありましたが、詳しくは分かっていませんでした。主人公である西光万吉は、幼い頃から住んでいる場所が違うという理由だけで周りの人からいじめられており、学校にも行けていなくて辛く苦しきただろうなと分かることが出来ました。その万吉を励まし勇気づける優しい友達や家族にも感動しました。そんな辛い中でも、万吉は、自分のやりたいことを諦めず希望を持ちつづけ、仲間と共に「水平社宣言」を行うことができたのが素晴らしいなと思いました。写真や音楽を用いて、よりそのシーンに引き込まれました。役者さん一人一人の心こもる演技にとっても感動しました。ありがとうございます。』

『とてもおもしろく、感動しました。今日のこの時間でたくさんのことを考えたし、学校でもならった水平社にこのような物語があり、辛い思いをしていた人がいたことを知りました。まんきち達は北岡に産まれたということだけで差別をうけていて、本当にひどい社会だと感じました。まんきちの母の最期の言葉が「産んだことを許してくれ」だったのが、とても辛いなと思い泣きそうになりました。でも、せいいちろうやしょうけん、きさくの支え・協力があり水平社を立ち上げ、最後には民衆がそれを認めて万歳をしていて本当によかったと思いました。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」ととても響きました。私もこれから絶対に差別をしないようにしたいと強く思いました。今日はとてもいい時間になりました。ありがとうございました!これからも応援しています。』

『今回の人権劇団「光座」の公演を聞いて、西光万吉さんが小学生の頃、北岡出身だからいじめを受けていて、さらに中学生の頃は北岡出身について色々言われていたため、不登校だったということが分かった。だが、親から勉強はしろと言われていたので努力したということも分かった。そして、万吉さんは絵が上手いことから作品を出したりしたことも分かった。そして 22 歳、1922 年 3 月 3 日全国水平社を創立したことも分かった。これからも色々な人を差別しないと思った。今回の人権劇団を聞いて良かったと思う。』

『私は、今まで人権や平等に関する公演を見たことも聞いたこともなかったので、今回の公演は新鮮で、とても貴重な経験になりました。全国水平社については教科書でちらっと聞いて理解するだけだったので、こんなにも深い物語があることに感動しました。物語の中で、西光万吉さんの生き様や、旧友、共に全国水平社を設立した人々への関わりと気持ちがとてもわかりやすく描写されており、面白かったです。また、西光万吉さんの、絵を諦め挫折した時に旧友である坂本清一郎や、駒井喜作がずっと傍に居ながら支え合っていたことや、母との最後の別れの時に母が頑張って体を起こして西光万吉に幸せを願う気持ちを伝えたことが、とても素敵だなと感じました。また、様々な壁に阻まれ、差別が降りかかる中でも諦めず、「北岡に生まれたからこそやらないといけないことがはっきりした」という前向きな言葉に胸を打たれました。現在、いじめや差別は完全になくならず困っている人が多くいるけれど、決して見て見ぬふりをせずに、胸の張り裂ける思いで全国水平社設立に向けて努力してきた西光万吉の想いを無駄にしないように、日々を過ごしていきたいと感じました。また人権や平和、平等に関する公演があれば積極的に参加していこうと感じる良い機会になりました。』

『今回、初めて人権に関する講演会に参加したけど、とても良い経験になったと思います。私は、今まで水平社宣言は名前くらいしか知らなかったけど、今日しっかり内容を知れたし、西光万吉さんについても知れたので、新たな知見を得たなと思います。劇を通して感じたことは、人権は誰かが与えてくれるものではなく、多くの人々の努力や勇気の積み重ねによって掴み取られたものなのだと思います。まだまだ、偏見や差別はなくならないけど、だからこそ、この過去の出来事から学んでいくことが大切なのではないかと思いました。改めて、今日は、人権について今まで以上に考えさせられる機会になり、とても良い講演会でした。また機会があれば、見に行きたいです。』

『今回の公演では、水平社宣言が生まれた背景や、差別に立ち向かった人々の思いがとても強く伝わってきました。知識として知っていることでも、劇として“人の言葉”や“表情”として表現されると、当時の苦しさや決意がリアルに感じられ、胸に響きました。特に印象に残ったのは、声を上げることの勇気と、それを支える仲間が存在です。差別がある社会と向き合いながら、「人間の尊厳を守る」というシンプルだけど大事な思いを貫いた姿に、今の時代にもつながるメッセージを感じました。この公演を観て、「自分だったらどうするだろう?」と考えさせられたし、人を傷つける言葉や態度を見過ごさず、自分の周りからできることを大切にしたいと思いました。歴史を知るだけじゃなく、今の自分の行動にも影響を与えてくれる、とても意義のある時間でした。』

『今回、初めて人権の劇を見ました。水平社会宣言は、社会の授業で習った事がありましたが、そんな深く考える事はなく、今回の劇で改めてどんなものなのかということを知ることができとても良かったです。劇団さんの一人一人の演技が、凄く上手で見入っていました。人権がどれだけ大切なものなのかなども考える時間になりました。まだ、この世の中で差別されている人がいるのでそんな世界が早く無くなればいいのにとっています。まんきちがどれだけ苦労してきたのかが分かりました。今回は、日向市に来ていただき本当にありがとうございました。また機会があれば行きたいなと思います。』

『水平社宣言についてあまり知らなかったけど、この劇をみてどういう経緯でできたかが知ることができた。たまたまそこに生まれただけで差別されてかわいそうだと思います。まんきちさんは、差別されても立ち上がって水平社宣言を作ってすごいなと思いました。わたしだったら諦めてしまっていたと思います。わたしも逆境がきても諦めずにがんばって食らいついていきたいです。良い公演を見ることができてよかったなと思います。ありがとうございました。』

『正直、水平社宣言についてあまり興味持ってなかったっていうかあまり詳しく知らなかったので、こういう機会でも水平社宣言について詳しく知れたので良かったです。辛い思いをしたけど頑張って行動できるところに感動しました。』